

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100569		
法人名	株式会社光仁介護サービス		
事業所名	まちだホーム青森 1階		
所在地	038-0058 青森市大字羽白字沢田46番地2		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当法人の経営理念は「医療」「福祉」の仕事を通じて患者様、利用者様に奉仕し地域社会に貢献することです。地域社会の皆様へ、特に高齢の皆様により快適な生活を提供する事を目的としております。利用者様が、馴染みの地域で、馴染みの生活を断つ事なく安心・快適に暮らして頂けるように、又、地域社会に根付いた活動を目指し職員一同サービスを提供しております。御利用者様の心身状況を踏まえ、御利用者様の出来る事は奪わず、出来ない事を強要せず、一人一人に合わせた支援を心掛けています。利用者様に積極的に外出する機会を設けて、ドライブ行事等を多く実施しております。地域活動一貫として、油川地区で開催された、桜マラソン、町内ねぶた祭り、ジャズフェスティバルなど、職員が積極的にボランティア活動を行い地域活動に参加しております。今後、地域行事に利用者様も参加していただき、楽しんでいただきたいと思いますと考えております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域密着型グループホームとして町内会との繋がりを大切にしており、町内の行事にも職員がボランティアとして参加したり、利用者も行事に参加し一緒に楽しんでいる。グループホームは医療機関との連携が強みであり、毎日医師や看護師の訪問しており、クリニックとネットワークが共有されることで、利用者と家族、職員の安心につながっている。事業所の理念である「自由・活発・対話」をモットーに、日常生活の中でコミュニケーションを大切にし、利用者がしたい事やできる事を叶えるように取り組まれている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の経営理念と、事業所独自の「自由・活発・対話」事業所内の廊下、事務所に掲示し、毎日のミーティングや申し送り等で確認し、全職員で共有のもと仕事の実践に繋げています。	事業所独自の理念として「自由・活発・対話」を掲げ、各場所に掲示し、毎日の会議や申し送りを通して話し合い、日々の介護サービスで実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の日の出町会と連携をとり、施設の情報を共有したり、日の出町会や油川連合町会のイベントに参加し交流をしています。今後も日の出町会と連携し、地域の一員として協力し合える関係作りを今後も行っていきます。	地元の2つの町内会と連携を図り、地域との繋がりを大切に、情報共有や地域の行事への参加など積極的に交流し、地域に開かれた事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民と挨拶、談笑し、地域住民と積極的に会話を実施しております。認知症の理解、支持を求めています。また、近隣住民から「花を見に来て」とお声掛け貰い、見学に行き、交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から、2ヶ月に1度、地域住民、市町村の担当者に参加して頂き開催しております。利用者様の様子、行事・施設の活動報告し、会議出席者から、意見等を頂き、サービス向上に努めております。	事業所からのサービス状況や運営状況を報告し、委員からの意見や質問を受け、双方にとって良い機会となっている。また、今年度より従来通りの会議の開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、管理者・ケアマネージャーがその都度、電話連絡や訪問し、市の担当者と連携を図っております。運営推進会議に、参加して貰い、意見等を頂いております。	運営推進会議はもちろんのこと、いろいろな機会を通して情報交換を行って連携を図り、助言等を頂くなど協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回、内部研修において身体拘束の弊害を職員に周知し、常に意識して介護業務に取り組んでおります。3ヶ月毎に身体拘束委員会を開催し、毎月の職員会議において、全職員に会議内容を報告している。利用者様の意思を尊重し、行動を抑えないケアに努めています。	3ヶ月に1度行われる委員会活動をはじめ、年4回の研修会において身体拘束防止の理解と弊害について認識を深めている。利用者様の意思を尊重し、行動制限や身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、内部研修にて、虐待について職員全員、学習する機会を設け、理解や意識を高めております。職員間でも、虐待にならないように、日常のケア一方法や言葉遣い等に十分気をつけるよう、職員間で確認し合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び成年後見制度に関する外部研修に参加して貰い、そこで得た知識を職員会議で、発表して貰い、職員間で共有出来る環境にしております。家族等から相談を受けた時は、内容を確認しながら、対応しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は利用者様と家族等と最初の共同作業であると考えています。必要書類について十分に説明を行い、家族等からの質問にも丁寧に答えながら確認し、書面にて契約書を取り交わしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活で知り得た利用者様の情報を御家族様に面会やお手紙などで報告しています。運営推進会議に参加して頂いたり、意見箱を設置して、意見を頂き、運営に反映させております。	日々の生活の中で利用者とのコミュニケーションを図り、意思を確認している。また、家族からは面会時や紙により情報を頂きケアサービスに反映している。運営推進会議からの意見についても必要に応じ運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を実施しています。職員から、意見・提案を聞いております。それに基づいて普段の業務、利用者様、介護業務に反映させております。	職員会議を通して意見交換を行い、必要に応じてその意見を運営に活かし、職員の働く意欲の向上に繋がるように工夫され取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めております。個別シートや個別評価を実施し、適切な評価をしておりやりがいのある、職場環境を整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の内部研修は、全体計画の基づいて実施されています。内部研修の研修計画は、職員自ら研修計画を策定し、自己研磨を図る取り組みをしております。利用者様の支援方法や対応方法を全員で把握し取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を積極的に参加させております。職業団体の研修や会合に参加し、その他事業所の方と情報交換を行い、参考点は積極的に採用させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族より、本人の様子や希望を伺い、直接本人と会い、知り得た情報や身体状況を把握している。入居後に適した環境で生活を送る事で、早い段階から本人との信頼関係を築けるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまで経緯を把握し、入居後の要望を取り入れたケアの方針を家族と共に考案している。御家族様と情報交換や連絡を密に行う事により、職員も御家族様気持ちを知り、安心出来るような関係を築ける様に取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の生活歴や習慣等を御家族様より教えて頂く事で、以前住んでいた場所と大きく生活環境が変わらない様にしています。その中で本人や家族の希望必要と感じる事を見極め迅速な対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の身体状況に合わせて、食器拭き、洗濯物を畳んでいただいております。利用者様と作品作りを会話をしながら実施し、生活空間を支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様に面会や電話にて施設での生活状況や課題などを報告・相談し共に本人の生活を支えていく関係作りを努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたお店や理・美容院、かかりつけ医等、利用者様の馴染みの方との関わりを継続出来るように支援を行っており、馴染みの人との繋がりが途切れないように面会して貰ったり、遠方の方は電話等で会話して貰ったり、支援しております。	利用者の生活歴や馴染みの関係を理解した上でその場所や友人等との関係を継続させている。そのために面会等を通して友人と触れ合える場を提供したり、電話を掛けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係を把握し、孤立しない様に配慮しています。全利用者様で行うレクリエーションの時間を設け、より良い関係性を作るように努めています。不穏時やトラブルを未然に防ぐ為の対応を検討し、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退去後も気軽に来所して頂けるよう関係作りをしております。必要に応じて本人、御家族様に相談や支援をしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活でのコミュニケーションや行動で利用者様の状況を把握し、職員間で情報交換を行っている。この内容をカンファレンスにより、利用者様の意思を尊重した対応を考案し、困難である場合は、御家族様への相談や協力を得るように対応しています。	日常生活でのかかわりの中で利用者の言葉や表情から状態を把握し、職員間で情報共有を図っている。また、意思疎通が困難な方については家族や関係者等から情報を得る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や御家族様からの情報以外にも以前、利用していたサービス担当者より生活習慣等の情報を頂いている。情報は記録を残す事によって職員一人一人が情報を把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日頃の様子を観察し、記録に残し、現状の把握に努めています。定期的にあセスメントを行い有する能力や課題に生活への思いについての現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員中心に利用者様の意見交換の場を設け、事前に聞いた御家族様や主治医、看護師の意見、見解を情報としてモニタリングを実施しています。職員と情報交換、様々な意見を取り入れたケアプランを目指して作成しています。	介護支援専門員を中心に話し合いが行われており、利用者の状態に合わせた介護計画となっている。また、作成にあたっては事前に家族や医療関係者等から意見を確認しながらケアプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、活動記録から、介護計画の見直しを行っています。業務日誌を活用し職員会議やケアカンファレンスなどで、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内に病院があり、医療連携体制を活かし利用者様の状態変化に対して早期対応が可能です。又、法人関連施設もあり、利用者様と御家族様の意向に沿った柔軟な対応が可能となるように、法人一丸となって取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	油川連合町会のイベント等に、職員、利用者様と参加しております。地域の人々と繋がりを大切にしております。近隣住民、町内会の方々に気軽に来苑出来る体制にしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診は利用者様、御家族の希望によりかかりつけ医を選択出来る体制をとっている。往診、通院の結果については、御家族に報告している。必要に応じて直接、家族が医師と相談出来るように医療との連携に努めております。	利用者や家族の希望するかかりつけ医が継続受診できるように支援している。また、必要に応じ受診や通院は職員が付き添いを行い、その結果を家族に報告されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者様の健康記録表を記入しています。看護師に状態を報告し、看護師、介護士の連携に務め看護師から、必要な助言を貰っています。同じ敷地内に病院、訪問看護ステーションの事業所もあるので、24時間随時対応していただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や御家族様と密に連絡を取り合い、利用者様と御家族様にとって最も適した今後の方向性を考える事が出来るように、関係作りをしています。主治医により施設の治療がある場合には早期退院し、住み慣れた環境で治療を行う事も可能となっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、利用者、御家族様終末期についての話をし看取りが可能である事を説明している。医療機関と連携を図り、円滑に最大限可能である支援が出来るように取り組みおります。看取りは、勿論、医療機関への入院や当法人の関連施設への入所等考慮し、利用者様と御家族様の意思を尊重した対応しています。	家族への説明や同意を行い、希望や意向を踏まえつつ、看取りや重度化した場合の指針があり、安心して納得した最期を迎えられるようにかかりつけ医及び医療機関と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通じ、知識と技術を高め、急変時や事故発生時に対応する緊急マニュアルの他、分かりやすいフローチャートを用意し、緊急時に備えている。初期対応は、医師や看護師に状況を説明し、指示のもと、最良の対応を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	専門業者立会いの基、年2回、日中・夜間想定火災避難訓練を実施しています。水害時対応や津波想定時訓練を地域の協力を得て、実施しております。非常食や災害用物品を常備しています。	定期的な防災訓練を行っており、立地上から考えられる水害想定訓練も実施している。食料品等の備蓄についても意識的に行われている。また、訓練には地域からの協力を得て行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言動や行動を否定せず利用者様個々の人格を尊重した関わりを行っています。個人情報、慎重に取り扱う職員に職員会議等で指導しております。	家庭的な雰囲気の中においても利用者に丁寧な言葉かけや否定しないよう取り組んでいる。また、サービスの際はその人らしさや自由を尊重し、一人ひとりを理解した上でプライバシーを大切に個別ケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示が出やすいように、日々声掛けや会話に努めています。利用者様の生活状態や身体状況を把握して、状況に応じて職員が声掛けし、自己決定が出来るように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーション等、決まった時間に行っています。利用者様が拒否や違う事を希望する場合は、利用者様の意思を尊重しております。あくまでも利用者様の状態や希望に合わせ、自分らしさを優先した、サービス提供を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好きな衣服を選んで、着て貰っています。季節に合った服装も提供しております。利用者の状態に合わせて毎朝、整容、整髪のお手伝いをしています。理容師が1か月に来苑され、利用者様の希望を聞きながら散髪されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が毎日の献立を栄養面に考慮し、作成してくれています。利用者様の好きな食べ物旬の食材も反映されています。調理、片付けや利用者様と職員と一緒に出来る範囲で行っていただいております。	管理栄養士が献立を作成しバランスの良い食事提供に努めている。また、利用者の嗜好に合わせたメニューや旬の食べ物を提供し喜んで頂けるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分摂取量を記録に残しております。必要な栄養、水分の確保が出来るように支援しています。利用者様の状況に応じて、刻み食、ミキサー食を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。仕上げが必要な利用者様には、一部介助や全介助しております。歯ブラシでの磨きが難しい方はスポンジブラシや口腔用ウェットティッシュを使用し口腔内の清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンや行動で、トイレの声掛け、トイレ誘導しています。利用者様の状態に合わせた対応しております。座位の保持が可能な方は、トイレでの排泄を目標にしています。定時での洗浄や清拭を行い、清潔保持に努めています。	利用者の個々の習慣や排泄パターンに応じた個別の排泄支援が行われており、オムツに頼らず可能な限り自立支援を基本にトイレを使用するように取り組みながら清潔保持にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックリストを毎日記入しています。便秘にならない様に水分補給を十分に行ったり、散歩や体操等の運動を取り入れおります。可能な限り自然排便への取り組みに努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎日、1階か2階、どちらかが、入浴されており、入浴日以外の利用者様でもその都度、希望があれば入浴出来るように支援しています。特殊浴槽・一般浴槽があり、随時対応しております。	基本的には週2回となっているが希望があれば週2回に限らず、その日の希望を尊重している。また、利用者の身体状況に応じて特殊浴槽などの使用も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムを尊重しながら、メリハリのある生活リズムを作る事を心掛け、夜間の安眠に繋げています。個々の体調に合わせて体の負担の無いように、日中でも静養時間を設けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の説明書を添付しています。定時薬の変更、臨時薬の追加処方などある場合申し送りや介護記録に記入し情報を共有し病状の変化に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や趣味などの情報収集しやりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて1日の活動に取り入れています。 (健康体操・カラオケ・映画鑑賞・生け花など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事にて、お花見など季節行事やドライブなどに、外出しております。天気の良い日は、園庭や町内を散歩に出掛けております。本人の希望で外泊や遠出する場合、御家族の協力を頂きながら、実施しています	行事のドライブをはじめ、天気の良い日には短時間でも外出が出来るよう支援に努めている。また、自宅へ外泊の際には、家族の協力にて実施されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は、多少のお金を持参し買い物や外出時、買い物を楽しんで貰っています。管理が困難な利用者様については、職員が管理するが、買い物際には、本人の理解と同意を得て、実施しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望により、いつでも御家族に電話で会話を楽して、いただけるようにしております。プライバシーの保護の為、居室での電話も可能となっております。直筆で御家族様に手紙を書き近況報告など行っています。利用者様の状態に応じて出来る限りで支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽の日差しが沢山入る、明るい空間の施設です。季節を感じるように、季節毎の、お花を飾っています。気温に応じて、施設内の温度・湿度調整を行っています。コロナウィルス感染予防の為、小まめに換気や空気清浄機を設置して対応しております。	共有スペースにはその時期の装飾品が飾られており、季節を感じられると共に、ゆっくりとした時の流れが利用者に安心を与えている。また、室温や空気、音、光など五感刺激への配慮が行われており、居心地の良い癒しの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール兼食堂にて、思い思いに過ごせるよう、スペースが広がっており、利用者様同士、コミュニケーションをとりやすい様、テーブル椅子を設置しています。大きな窓が沢山あり、外の景色を楽しめる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族様と相談して、家具の配置等を決めております。居室には、入居前の在宅等で使用していた、使い慣れた品物や思い出の品を持参し、使いやすように設置しております。	本人の希望や家族から協力を得て、これまで使い慣れた馴染みの物を置く際には配置場所等も確認し、居心地の良い空間づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下、トイレに至る生活空間の全てに手摺りを設置しています。車椅子使用の方にも不便のないよう、洗面所の高さを考慮した造りとなっており、自立支援を目標とした、取り組みをしております。		